

十六葉の大冊にして電文模様ある裝飾器具片より玉刀、玉璋、玉斧、玉璫、玉璣、蒲璧、穀璧、圓珮、魚珮、珮蟬、鳩珮、兔珮、鷄心珮、翁仲、小琮類あり殊に魚珮の多きは注目に價する所で、後世の魚符を考へ合はすべき好史料である。玉に關する研究書はあまり多く出て居らず支那に於ても吳大澂の古玉圖考なきが有名である位であるから、ペリオ博士の論文が將來の玉研究の進運に寄與する功績は蓋し鮮少なからず考へられる。〔以上那波〕

●史學研究會

例會 六月十二日午後一時、樂友會館樓上大講堂に開會。左記の講演あり、午後五時散會した。

我國古代の土地私有制度 法學士 牧 健 二 君

大化以前皇室領たる屯倉、社領たる神地を除く皇族、寺院、臣連伴造國造村首の所有地が田莊である。田莊はその所有者の權力身分の相違に従ひその状態同一でないが、屯倉と共通の性質を有し、氏族制度又は國造制度に基いて成立したものである。即部曲の民として一の部落の住民が豪族の私力の支配に歸するやその土地はやがて田莊と化し、又贈與をうけし土地を田莊とすることもあり、最著しいのは無主地の開墾にしてそれによつて田莊は漸次増加した。京畿地方にては普通村を單位として組織されたが他地方では一郡に亘るこゝがあつた。領有者の側より云へば皇族の有したものは其數多くない。寺領たる

ものは田莊發達の時期に於いて發生し大化にも廢せらるゝことなく後の莊園に繼續して居る。臣連以下は大化の詔に所謂有勢者であつてその意は政治上官人なること共に族制組織上族長を意味する。その有した田莊は私有地といはんよりは寧ろ領地である。その經濟亦一様でない、班田のこごありしや否やは明でないが田莊は必しも班田ご相容れざるものではなく、一種の小作的制度があつたのであらう云々。

佛陀時代の政治状態

文學士 羽溪 了諦著

印度は其の驚異すべき文化を展開し乍ら、有名な歴史の書き残されなかつた國である。従つて其古代に於る政治社會の状態は殆んど暗黒である。然し此暗黒の中にも多少の光明を投ずるものは實に佛敎經典の存在である。吾人は佛經聖典中に現れ來る國家、主權者等に關する記事の討檢によりて佛時代前後の印度中國地方に於ける政治社會の状態を略想見することが出来るのである。マヌ法典に見えたる所謂印度の中國が佛典に於ては更に東方に擴大されてゐること、佛出世少しく以前に所謂中

國には十六大國が存在したが佛時代に於ては政爭の中心はマガダ國對コサラ國の爭覇にあつたこと、又此兩國を初めとし、パツチー共和國、アパンチ王國等の間に行れた攻伐聯盟、結婚政略、其強弱盛衰に就て種々の原始佛典を引用して興味深く論述された。

● 讀 史 會

例會 六月二十五日午後六時半、樂友會館第五號室にて開催、出席者三浦、西田兩教授以下二十二名、左記の講演あり、十時過散會。

鎌倉時代の社會状態

柴田 實君

鎌倉時代の新制をもこゝして、強盗山賊海賊の横行、諸社寺の神人惡僧の狼籍等社會の不安より説き起し、公家社會に於ける職務怠慢、官紀紊亂の事實をあげ、その間にありて庶民階級の生活の高まり來れることを、強盗に對する自警團的制度的存在や、民間諸社祭例の華美、及びそれが富裕なる氏子の經營に出づるものなること等によつて示し、更に群欲博奕の流行を述べて風俗の

壞亂に及び、を助長せるものにして不正なる結婚媒介の存在せる事實をあげ最後に一般服裝の奢侈に就いて説く。

研究の二三に就いて 文學博士 西田直二郎君

上古に於ける庭園と我國民生活との關係を見るに、古く我國の庭は大陸思想、特に道教思想の影響をうくるところ多し。蘇我馬子の飛鳥河上の邸の庭に池を穿ち島を造れるは全く漢武帝の上林園、隋帝の西園の様式と相同じく我國人の目には敢て珍しからざる島が庭中にありまして殊に時人に喧傳せられしは、それが蓬萊瀛洲二島を模せるが爲なるべし。凡そ海洋國にありては島は死人の赴くところと考へらるゝを常とし、我國に於いても其思想の存在せしことを想像すべき理由あるに對し大陸國に於いては島は神仙の住するところと考へらる。蓬萊は即その表象なり馬子の庭も之を模せるものにて、その背後には神仙思想あり、その後聖武帝の松林園亦同じ、平安初期の代表的庭園神泉苑は自然の地形と地質を利用せるものなるが、同じく池と島ありしことを鎌倉初期以下の古

圖に明なり。而してこれは鹿を狩し水禽を獵せる等歐洲の Teigenen に類するところあり。この後漸次寢殿造に應じたる庭發達せしがそれにも島ありしことを古き傳統によるものなり云々。

◎西洋史讀書會

例會 六月十七日午後六時より樂友會館に開く。來會者二十餘名。

ラインランドからオストプロイセンへ

文學博士 坂口 昂君

自由役の詩人アルントの「ラインはドイツの流れでドイツの境界でない」といふことの、大體世界的に當を得て居る所以から、ライン沿岸に於るローマの遺跡、フランクフルトの東北三十里ベブラ附近ゾルフといふ百軒たらずの田舎村の生活及び、オストプロイセンのケニグスベルグに近いフツクスフェエの僻村訪問により、この東西の世態人情の比較なき、日記をもこゝしての講演である。博士一流の鋭い觀察諧謔に加へて、寫眞繪葉

書列車時間表宿料受領書等によつて、益々實地に臨む様な感あつたことは何ものにも代へられぬ喜びであつた。

ライン河の溯航

野口 優徳君

米人 Melville Chater 氏のライン河溯航記の紹介である。先づ和蘭國內の Rotterdam より溯航の途に上り、獨逸國內に入り、同國內にては、本流以外の支流ルール、マイン河その他の沿邊をも訪れ、獨逸より曲折して瑞西國內に入り、Boden-See を過ぎ Vorder Rhein の源を極め、遂にアルプスの高峰 Badus 山に至りてその行を終る。その間、沿岸の葡萄園、幾多の怪奇なる傳説、中世の面影を残せる舊城趾に就いて述べ、更に古くはローマ時代より存せし諸都市持にケルン、フランクフルト、ストラスブルグ等に就いてその今昔を物語る。又、大戦後のルール地方の狀況、獨佛間に於るアルサス、ロレーヌの爭奪に就いても觸れるところあり。

● 最近の歐米史界

歐洲大戦前外交の研究 最近の歐米史學界の一特徴

は、かの歐洲大戦責任論の結果として現れた戦前國際外交の研究や、新祕密文書の公表の盛なる事である。その最大の收獲は、普佛戦役以後歐洲大戦に至る獨逸公文書を發表した彪大なる Die Grosse Politik der Europäischen Kabinette 及び三國同盟の謎を氷解せしめたウヰーン大學教授 A. F. Pribram 博士の Die Politischen Geheimverträge Österreich-Ungarns 1879—1914 であるが、尙ほ最近の收獲を擧ぐれば次の如きものである。

英國外務大臣は、Seton-Watson 教授その他の懇願により、戦前歐洲國際關係に關する公文書を外務省の手によつて公表すべき事を約した。これ、上述の獨逸の Die Grosse Politik に倣つたものであるが、若しかゝる擧が佛米その他の諸國を刺戟して同様な態度に出でしめる事になつたならば、戦前外交の研究にまつての一大福音である。殊に英國の文書發表は、該方面に造詣深き Gooch 博士、Templeley 氏の編纂に係ることを云ふ事なれば、その公表は蓋し期待に値すべきものがあらう。

スエーデンの學者 Hege Granfelt は、最近公表され

た獨逸の外交文書を利用して、“Das Dreibündnisystem 1879—1916”の題名の下に、三國同盟の新研究を發表した。その第一卷なる獨逸二國同盟よりビスマルクの隱退に至る時代は已に發刊された。

ヘルリン駐在前トルコ大使 Montklar Pasha は、“La Turquie, l'Allemagne et l'Europe depuis le Traité de Berlin jusqu'à la Guerre Mondiale” (Paris) を著した。

獨逸外務課長にして、自ら對セルビア最後通牒を草した Freiherr von Musulin は、その著“Das Haus am Ballplatz” (München) を出して、この時獨逸はセルビアが最後通牒を受領すべき事を豫期して居つた事を述べて獨逸の大戦責任に對する無罪を主張した。

Otto Becker 博士は、最近獨逸當局より發表された新外交文書を利用して、“Bismarck und die Einkreisung Deutschlands”を著した。これ“三國同盟”“三國協商の綜合的研究”として、極めて重要なものであることは言をきたない。第一卷 Bismarcks, Bündnispolitik は已に一九一三年に出版されて居り、第二卷 Das Französisch—

Russische Bündnis は昨年出版され、第三卷 Die Triplice-Entente は近く發行される由である。

本年始にロシア政府より發行された“Das Zaristische Russland im Weltkrieg”は、大戦開始前の露伊、土、ブルガリヤ、ルーマニアとの間の外交文書を包含したもので興味ある公表の云々である。

佛國に於る *Histoire Générale* の刊行 最近この方面の刊行多數あり。先づ、Cavaignac 氏編纂の十二冊本は一般のもの、Halphen, Sagnac 兩氏編纂の二十冊本は綜合文化史の形を具へたもの、Maxime Petit 氏編纂に係る Larousse 出版の三冊本は學校用の簡單なるもの、Ber 氏編纂に係る“Évolution de l'Humanité”は知名學者の論文集の如きもので、學的價値の充分に存するものである。最も學術的に傑出せる *Histoire Générale* 出版は、パリ大學教授 Gustav Glotz 博士の指導に係るものであつて、古代中世近世最近世の四部に分れ、各々佛國に於る著名學者の執筆に係り、五十冊の大部を包含すべき豫定である。古代は更に、東方、ギリシア、ロ

一マの三部に分れ、ギリシアには三冊が分配され、その第一冊は Glos 博士自らの執筆によつて已に出版された。完成の曙には、Lavisse—Rambaud のそれと相對して史學上の一傑作品となるであらう。

獨逸に於ける古典雜誌の新刊 古典月刊雜誌 *Gnomon* が、今度知名古典學者を編纂者として出版する事となつた。創刊號は昨年四月號であつた。次に、*Die Antike* なる雜誌が、多少通俗趣味をも加味して、年四回の豫定で新しく發行さるゝ事となつた。

歐米史界雜俎

佛國にてはビザンツ研究の機關雜誌として、*Byzantion* なる雜誌を新しく發行する事となつた。Dichl, Jorga, Miller, Ramsay 筆の知名學者の編輯に係る。

Edvard Meyer 博士は、その名著 *Geschichte des Altertums* の第一卷に對し、最近十年間の研究發見に基き、*Die ältere Chronologie Babyloniens, Assyriens und Aegyptens* なる附録を發行した。

Cambridge Ancient History, vol. III. "The Assyrian

Empire" が昨年十月に發刊されたが、更にその第四卷 "The Persian War and the West" が近々發刊される筈である。尙ほ *Cambridge Mediaeval History*, vol. V. "Crusades" も最近發刊された。

古代戰史に關する權威的參考地圖であつた *Kromayer-Veith* の "Schlachten-Atlas zur Antiken Kriegsgeschichte" の第四部が發刊された。マランソンの戰よりケローネアの戰に至る迄を取扱つて居る。因みに、著者 *Veith* 大佐は昨年九月小アジアに研究旅行を行ひ乞食の爲に殺害された云ふ事であるが、誠に悼むべき事である。その後任としては、ウ井ーン軍事圖書館製圖課長 *E. Nischer von Falkenhof* 中佐が選ばれた。

中世史の凡ての方面の研究に資する爲、昨年十二月、*Mediaeval Academy of America* が創設された。アメリカ及び海外諸國に於る中世研究の發展に努力する由。機關雜誌として "Speculum, a Journal of Mediaeval Studies" を年四回發行する豫定である。近來、史學の方面に於て大いに活躍し來つたアメリカに於る同會の創設は中世研

究に到りて大なる喜びをすべきものである。

ルッソーの書簡なるものは、從來極めて少数が發表されて居るのみであつたが、ゼネバ圖書館長たりし故に D'ophile Dufour の長年の苦心によつて、ルッソーの凡ての書簡が蒐集され “Correspondance Générale de J. J. Rousseau” (Paris, Armand Colin) の題名の下に二十卷の豫定で刊行される事となり、已に二卷は發刊された。重要な刊行の云ふべきである。

J. H. Rose 博士その他の編輯の下に、Cambridge History of the British Empire” の發刊が計畫されて居る。最初の三卷にて總論を爲し、第四卷はカナダ、第五卷はオーストラリア、第六卷はアフリカに宛てられ、第一卷は明年出版される豫定である。

Macmillan Company は、ウエルスの名著たる Outline of History の改訂増補版を出す由。

André Lange, E. A. Soudart 兩氏の共著に係る “Traité de Cryptographie” が昨年出版されたが、外交暗號文の解讀には大なる便宜を得たもの云はなければならぬ

い。

佛國に於て權威ある史學雜誌 Revue Historique は、今度五十週年紀念を迎へる事となつたが、この際その内容の配置に若干の變更を行ふ由。餘りに長き論文は、これを Bibliothèque de R. H. なる不定期附録に收める事となつた。

佛國に於て、一九一九年以後の最近事情の研究に資する爲に、Office de Documentation Internationale Contemporaine が創設され、昨年より月刊の Bulletin を發行する事となつたが、これ、英國國際協會の “Survey of International Affairs” の刊行に相まつて、現代史研究に大なる利便を與ふものである。

Sir. A. W. Ward は一九二四年六月十九日に逝去した享年八十六歳。氏は獨英に學び、一八六六年より九七年までは、マンチエスターの Owen College の歴史教授となり、一九〇〇年以後はケンブリッジの Master of Peterhouse になつて今日に及んで居る。氏の功蹟の最大なるものは、Cambridge Modern History, Cambridge History

會 報

of British Foreign Policy, Cambridge History of English Literature に於る編纂の分擔である。勤勉に堅實を以て聞えし同氏の逝去は、史學界に於て誠に惜むべき事である。

寄贈交換圖書

Collège de France 教授 Arthur Chuquet 博士は一九

獨逸思潮史上

國民圖書株式會社

二五年六月七日を以て長逝した。享年七十二歳。氏は長

日本近世史説(花見朔已著)

日本學術普及會

く Revue Critique d'Histoire et de Littérature の編輯者

西南文運史論(武藤長平著)

岡 書 院

として佛國史學界に貢献したが、その最も有名なる著述

唐宋時代に於ける金銀の研究

東 洋 文 庫

は、Les Guerres de la Revolution の十一冊本である。

史蹟精査報告第二

内 務 省

尙ほ La Jeunesse de Napoléon の三冊本もよく愛讀さ

民族一の五・六

民族發行所

れる。「大村」

觀想一の五

觀想發行所

國學院雜誌三二の七八

國學院大學

歴史地理四八の一・二・三

日本學術普及會

哲學研究二の七

京都哲學會

人類學雜誌四一の七

東京人類學會

史學雜誌三七の七・八

史 學 會

考古學雜誌一六の七

考 古 學 會

經濟論叢二二三の二

京都帝國大學經濟學會

伊豫史談四五・四六

伊豫史談會

●會員 動靜

圖入 會

廣島高等學校

(右紹介者 中原與茂九郎氏)

京都帝國大學文學部史學科學生

同上

京都市上京區相國寺門前町六三七

大阪府南河内郡佐山村

京都市小石川區大塚窪町三四

(右紹介者 島田貞彦氏)

京都市外瀧川西ヶ原六一福島方

(右紹介者 大久保利謙氏)

京都市麻布區新網町一ノ五〇

(右紹介者 神田喜一郎氏)

栃木縣宇都宮中學校

(右紹介者 石川隆氏)

東京市麴町區外國語學校

(右紹介者 友枝照雄氏)

高知高等女學校

堺市材木町東一町

(右紹介者 三浦周行氏)

別府市本町

(右紹介者 天沼俊一氏)

京都府伏見町津知橋

(右紹介者 井川定慶氏)

京都市外池袋聖公會神學院

右紹介者 (小林秀雄氏)

町田 尚政氏

出口 勝行氏

日名子 太郎氏

長谷 雄良 隆氏

深井 渙 二氏

小島 眞氏

村松 繁 樹氏

島津 忠 承氏

末永 雅 雄氏

堀江 信 二郎氏

岡田 實氏

樋口 龍太郎氏

橋本 義 逸氏

出村 良 夫氏